

いざ総選挙！！でも「選択肢がない」埼玉9区の不幸 「政権交代」担うはずの候補（五十嵐ふみひこ氏）は 違法な「秘書給与流用」の嫌われ者！

2009年8月4日

7月21日に衆議院が解散され、政局の流れは8月30日の投票日に向けて一挙に加速した。この間の中間選挙、特に7月初旬執行の東京都議会議員選挙は、民主党の大勝

利と自民党の歴史的敗北という結果となり、国政選挙も「自公政権の終焉」が既決のテーマであるかのような状況だ。

「人気女子アナの亭主」が落下傘立候補した 話題の選挙区・埼玉9区

こうしたなか、「下野は必至」という状況を認識しつつも、自民党候補は各選挙区で議席の生き残りをかけ、党とともに懸命な取り組みを展開している。

東京都内からの直線経路、西武鉄道の主要2路線（新宿線・池袋線）と東武東上線が通り、通勤圏として“埼玉都民”が多く住まう埼玉9区（入間市、飯能市、狭山市、日高市、毛呂山町、越生町）は、福田内閣の官房副長官をつとめた大野松茂氏が2005年選挙まで選出されていた。このたび大野氏の引退にともない自民党が擁立したのは、前回の衆議院比例東京ブロックで当選した大塚拓前代議士である。

大塚氏は小選挙区での挑戦が今回、初めて。現職とはいえ、地元埼玉では無名に近い存在だが、それを補うだけの余禄を持つ議員だった。元人気女子アナで自民党から前回参議院選挙の東京選挙区で立候補し、

先輩候補を押しつけて当選した丸川珠代参議院議員と「職場結婚」して、話題となったのである。

解散後、大塚前代議士と丸川参議院議員の「夫唱婦随」ぶりはテレビでも放映され、全国的にも関心を呼んだ。ときには浴衣まで着て街頭での応援演説に立ったり、夏祭りの挨拶にまわったりと健気に夫を立てるその姿に、挨拶を受ける年配の町会役員たちが「かわいいねえ」と目尻を下げっぱなしにする映像がお茶の間に映し出されていた。「いやあ、こんなきれいな人を地元から立候補させてくれるなんて……」と勘違いする向きも現れ、候補者本人と比べてあまりに華やかな“応援団”に、大野元官房副長官を本部長に押し立てた大塚選対さえ、思わず苦笑する場面もあったようだ。

しかし、一部のマスコミ関係者や政府官僚の中には、大塚拓前代議士を評価する者

もいる。

「前回の『郵政選挙』では、『刺客』やら『小泉チルドレン』と称する有象無象がたくさん出てきましたが、大塚さんは自民新人の中では地味で目立たない方。でもその分、まじめに仕事に取り組むタイプで、よく勉強して委員会質疑にも取り組んでいました。ふだんから読書もして、熟考する人ですか

ら、そういう知的な雰囲気丸川さんもホレたんでしょうね（笑）」（政府関係者）

だが現在、「今度は政権交代」という嵐のような流れが、どのマスコミも共通している。「自民激減」という予想を明確に示す、かつてない激流になっている。大塚・丸川のささやかな“夫唱婦随”がこれに抗し切れるかどうか、先行きは読めない



埼玉9区に「政権交代」を託せる候補がいるのか？

五十嵐ふみひこ元衆議院議員の「秘書給与法違反疑惑」を忘れてはならない

「自民から民主へ」の流れが、現在のわが国全体の大勢となっている。だが、ここ埼玉9区で民主党から立候補を予定している候補が、「制度疲労」の元凶となった自民党政治に代わりうる代表としての資質を有しているかといえ、大いに疑わしいと言わざるを得ない。本紙が2月に報じたとおり、同区から民主党公認で出馬する予定の五十嵐ふみひこ元衆議院議員は、現職時代の平成14、15、16、17年度の4年間にわたり、

自らの公設秘書に525万円もの寄付をさせていたのである。これは明白な秘書給与法違反行為なのだ。

本紙の報道は、民主党の支持者や関係者の間で反響を呼んだ。次のような証言が新たに寄せられている。

「行政調査新聞で取り上げられた秘書の他にも、寄付を強制された人がいますよ。『収入が目減りして……』と嘆いていました。そのときは、ああそんなもんかと思ったの

ですが、違法行為だったんですね」(五十嵐氏の後援会関係者と思われる男性：本紙への電話から)

「私は、日頃の五十嵐さんの言葉からクリーンなイメージを受けていたんです。ライバルである自民党の大野松茂代議士のことを『金で選挙をやっている』とけなしてい

ましたからね。でも行政調査新聞を見て、どっちもどっちだと思いました。五十嵐さんのことは小沢一郎代表の耳にも入っているようですが、小沢さん自身が西松建設の問題で疑惑を持たれてしまって、五十嵐さんの問題どころではなかったのでしょうかね」(本紙に寄せられたメール)

人格的清潔さこそ「選良」の第一の資質

五十嵐氏は、支持者に対し「行政調査新聞を告訴する」と話してまわったようである。これも本紙に電話で寄せられた情報だ。実際、記事公開後、本紙には手紙やメール、電話が多数寄せられた。

電話をしてきた人の中には、「あんたたちは、自民党の手先だろう？なんで五十嵐さんを中傷するんだ」と抗議してきた方もいる。

本紙は「公設秘書の寄付」が、公文書である政治資金収支報告書に五十嵐氏側が自ら記載した事実であり、またそのこと自体が秘書給与法違反であることを、可能なかぎり丁寧に説明した。ほとんどの人が納得してくれた。

しかし、残念ながら「政権交代」の波の中で、民主党という旗印を掲げる五十嵐氏には、追い風が吹いているだろうか。過去の選挙においては一度も小選挙区では当選できず、前回の「郵政選挙」では自民党の大野候補に4万票の大差をつけられて敗退した五十嵐氏。今度こそは、雪辱を果たしたいところだろう。

本紙は民主党に対し指摘した。違法行為を報じても平然と開き直る人物を「選良」の候補に推し立てるべきでない、と。しか

し民主党側からはこれまで何の回答もないまま、事態は推移してきた。もしこのまま「民主党への風」で五十嵐氏が押し上げられてしまうのであれば、氏の違法行為はなし崩し的に「免罪」となる恐れがある。

本紙が接触した民主党関係者は、嘆くように述べた。

「五十嵐は、前から問題が多いんだ。党内でも嫌われている。秘書給与の問題で執行部に呼ばれても、『そんなことしてない』と平然とウソをつくんだから……」

民主党には自浄能力がないのだろうか？五十嵐氏の問題を曖昧にしたまま、民主党が彼を公認候補として擁立するというのであれば、それは衆議院を穢す行為と同じだ。

埼玉9区の有権者は、まことに不幸な立場に置かれている。全国で問われる「政権選択」への一票を、どう投じるのか、術がないのである。しかし判断を誤ってはならない。「選良」の第一の資質は、人格的な清潔さなのだ。■